

2024 年度 事業報告書

(2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日)

はじめに

世界の難民は、1 億 2000 万人に達しました。過去最大、12 年連続の増加となっています（国連難民高等弁務官事務所 UNHCR 2024/5）。

2024 年、日本の難民認定申請者数は 12,373 人、認定した者 190 人（審査請求で認定された 14 人を含む）。国籍の内訳は、アフガニスタン 102 人、ミャンマー 36 人、イエメン 18 人、パレスチナ 8 人、中国 5 人、エリトリア 4 人、イラン・ウガンダ・カメルーンが各 3 人、カンボジア 2 人、イラク・エチオピア・コンゴ民主共和国・バングラデシュ・マリ・ロシアが各 1 人となっています。

補完的保護対象者認定申請者数は 1,273 人、認定した者は 45 人。国籍の内訳は、シリア 16 人、ミャンマー 13 人、スーダン 11 人、ウクライナ 5 人となっています。

難民及び補完的保護対象者のいずれにも認定しなかったものの人道的な配慮を理由に在留を認めた者は、335 人。国籍の内訳は、ミャンマー 262 人、カメルーン 13 人、コンゴ民主共和国・リベリア・無国籍が各 3 人、アフガニスタン・イラン・スーダン・ロシアが各 2 人、エジプト・英国が各 1 人となっています。

一次審査の平均処理期間は約 22.3 ヶ月、審査請求の平均処理期間は約 12.6 ヶ月となっています。（法務省出入国在留管理庁 2025/3/14）。

このような状況の中、生活に困窮する難民認定申請者を受け入れる難民シェルターとして設立された当センターでは、これまでに 30 か国 93 人を受け入れてきました。2024 年度は、新規 11 人を含む 30 人に、延べ 13,560 泊の住居、食事を提供し、生活支援、医療支援、学ぶ機会、交流等の支援を行いました。

難民や避難民に寄り添う取り組みは地域社会に受け入れられ、様々な交流を通じた相互理解が進んでいます。異なる背景や属性を持つ人々と地域住民が共に喜び支え合い、共生社会を築く取り組みが進んでいます。鎌倉市内の様々なステークホルダーが参加する「鎌倉なんみん共生フォーラム」とも連携し、難民を歓迎する社会づくりに取り組んでいます。

自治体との連携や協力も拡大しており、2023 年 5 月には神奈川県やかながわ国際交流財団とウクライナ避難民に関する連携協定が締結しました。UNHCR が自治体との連携を強化するグローバルキャンペーン「難民を支える自治体ネットワーク」に 2023 年 6 月に鎌倉市、2024 年 5 月に神奈川県が署名しました。

国際的な難民支援ネットワークにも参加し、定期的に現状を把握して意見交換を行っています。2021 年のミャンマー国軍クーデター以降、多くの避難民や難民が発生しているため、今後の支援方法についてネットワークを通じて検討しています。

1 難民への定住支援事業

(1) 緊急シェルターの提供

2024 年度実績	実人数 30 人	新規入所者	11 人	延べ滞在日数	13,560 泊
2023 年度実績	実人数 47 人	新規入所者	32 人	延べ滞在日数	10,749 泊
2022 年度実績	実人数 32 人	新規入所者	21 人	延べ滞在日数	7,698 泊
2021 年度実績	実人数 20 人	新規入所者	13 人	延べ滞在日数	3,519 泊
2020 年度実績	実人数 15 人	新規入所者	15 人	延べ滞在日数	1,857 泊

＊ 2020 年度からの新規入所者数 累計 93 人 (30 カ国)

＊ 2024 年度 実人数 30 人

2020 年から継続 3 人、2021 年度から継続 2 人、2022 年度から継続 1 人

2023 年から継続 13 人

＊ 平均滞在日数 452 日間 (2020 年からの継続含む)

＊ 最長滞在日数 1,580 日間 (2020 年からの継続含む)

難民が安全で安心できる住居の提供

施設内には 30 の個室があります。入居者の通信手段を確保するために、施設内では常時 Wi-Fi 接続が可能です。

食事の提供

1 日 3 食の温かい食事を提供しました。調理担当スタッフを中心に、多くの調理ボランティアの支援を受けています。食材の提供には、支援者や近隣の農家、青果店、パン屋、フードバンク、地域の団体、鎌倉市や鎌倉市社会福祉協議会からも支援を受けています。

衣料・日用品

地域の市民グループや個人から中古・新品の衣料や日用品の寄贈を受けています。寄贈品の整理や配布は地域のボランティアの支援を受けています。



地域の農家から野菜の支援をいただきました

(2) 医療の提供

入居者の多くは、在留資格の関係で健康保険に加入できず、医療費は全額自己負担となっています。必要に応じて、地域の医療機関での診療にスタッフが同行するなどのサポートを提供しています。医療費に関しては、当センターに寄せられる寄付や無料低額診療制度も活用しています。

今年度は、2 組 3 人の出産ケースがあり、鎌倉市の入院助産制度を活用させていただきました。

医師の往診、医療相談会

週に 1 回、地元の医師がボランティアで往診してくださっています。さらに、月に 1 回、2 名の医師と 1 名の鍼灸師による医療相談やマッサージを実施しています。



衣類・日用品の提供



5 年間で 5 人の新しい命が誕生しました

(3) 日本語学習支援

将来的な自立のため、入居者のニーズに応じて地域の日本語教室の支援を受けています。

(4) アルペファーム（農作業）

敷地内の畑で、毎週土曜日に農作業を行いました。近隣住民が中心となり、入居者と交流しながら野菜を育てました。



毎週土曜日のアルペファームの様子

(5) 地域のイベントへの参加

- ・ 2024/05 第 56 回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）
- ・ 2024/05 みんなで鎌倉平和パレード
- ・ 2024/05 鎌人いち場
- ・ 2024/07 七夕飾りづくり（鎌倉社協）
- ・ 2024/11 第 66 回鎌倉市民合唱祭
- ・ 2024/12 鎌倉福祉まつり
- ・ 2025/01 ベルカント唱法研究会コンサート（大和市）



2024/05 鎌人いち場



2024/05 第 56 回慈善茶会（鎌倉青年会議所主催）



2025/01 ベルカント唱法研究会コンサート（大和市）

(6) 近隣の居場所プログラム

月に 1 回開催される近隣の地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」「地域食堂ゆきのした」に参加しました。「地域食堂ゆきのした」では、入居者が母国のカレーの提供、母国の歌を歌うなど、参加者と交流しました。



地域食堂ゆきのした



ふらっとカフェ in 二階堂での書き初め

(7) ウクライナ避難民支援

ウクライナでロシアによる軍事行動が2022年2月24日に開始され、多くの国内避難民や難民が発生しました。この影響で、日本にも2,606人(2023年3月末時点)が入国しています。アルペなんみんセンターは、公営住宅につながるまでの間、11名の避難民を受け入れました。

神奈川県在住のウクライナ避難民の方々の相談支援、病院の同行支援などを行っています。

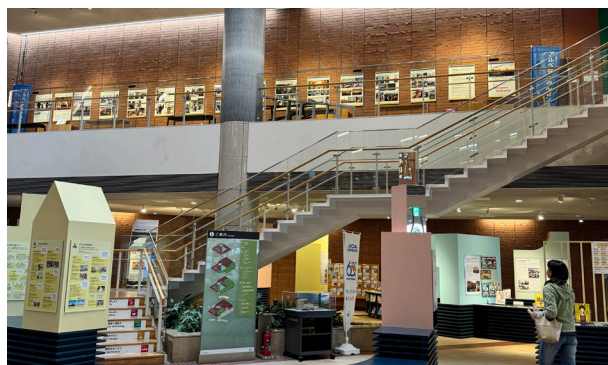
神奈川県、かながわ国際交流財団と ウクライナ避難民支援に関する連携協定締結

2023年5月、神奈川県と公益財団法人かながわ国際交流財団と連携協定を結び、神奈川県在住のウクライナ避難民の支援を県内の自治体と協働して行っています。

公益財団法人かながわ国際交流財団 「かながわ民際協力基金」助成事業 「ウクライナ避難民のための相談支援と交流事業～多文化共生社会にむけて～」の実施

助成を受け、ウクライナ避難民への支援事業等を実施しました。

- ・ 相談、通訳事業
- ・ 行政機関、病院等への同行支援



2024/4 ウクライナ写真展 (JICA 横浜)



2025/3 ウクライナ展への写真パネルの提供
(JR 横浜駅東口新都心プラザ 主催：神奈川県)

(8) アルペ小金井センター閉鎖

2023年4月から東京小金井市で試行してきたアルペ小金井センターの存続が困難となり、2024年9月末で閉鎖となりました。カトリック女子修道会「聖霊会」のご協力のもとで、新たな試みとして2つ目のシェルターを開設し、1年3か月の間に難民申請中の5カ国7名の女性と子どもを受け入れ、衣医食住・定住支援を提供してきました。

聖霊会の皆様、大勢のボランティア、支援者、地域の皆様のご協力ご支援をいただき、共同生活を営みながら、それぞれに成長し、沢山の喜びがありました。

入居していた5人はすでに自立し、新しい場で生活しながら、今でも支え合っています。

残りの2名はスタッフと共に神奈川県鎌倉市にあるアルペなんみんセンターに転居し、引き続き日本での自立に向けた歩みを続けています。

諸事情により短期間で閉鎖することとなりましたが、聖霊会をはじめ、応援してくださった皆様に心より感謝申し上げます。



アルペ小金井センターの
あゆみ

2 情報発信事業

(1) 国際理解教育事業（なんみんセミナー、オープンデー）

なんみんセミナー（オンラインを含む）全国の小中高校や大学、そして近隣の施設で実施しました。オンラインを含め、多様な形式で開催しました。また、オープンデーも開催し、施設見学や難民との交流の機会を提供しました。

2024年度	なんみんセミナー	65回開催	4,085人	参加
	オープンデー	10回開催	67人	参加
	合 計	75回開催	4,152人	参加
2023年度	なんみんセミナー	45回開催	4,151人	参加
	オープンデー	47回開催	442人	参加
	合 計	92回開催	4,593人	参加
2022年度	なんみんセミナー	55回開催	3,225人	参加
	オープンデー	17回開催	230人	参加
	合 計	72回開催	3,455人	参加
2021年度	なんみんセミナー	20回開催	2,461人	参加
	オープンデー	3回開催	36人	参加
	合 計	23回開催	2,497人	参加



2024/9 神奈川県社会福祉士会スタディツアー



オープンデーの様子



2024/9 鎌倉市内の学童保育



2025/2 鎌倉市内の高校

(2) ニュースレター、ホームページ、SNS 等での情報発信

1) ニュースレター「アルペ通信」

当団体の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペ通信(A4 4 ページ)」を発行し、配布しました。

第8号(2024年7月、12,300部)

第9号(2024年12月、12,000部)



2) ニュースレター「アルペだより」

当団体の日常の活動を広く伝えるため、ニュースレター「アルペだより(A4 1 ページ)」を発行しました。

No. 12(2024年5月) No. 13(2024年8月)

No. 14(2024年12月)



3) ホームページ

当団体のホームページにて、活動内容を詳細に紹介しました。また、定期的にイベントの募集や報告を掲載し、随時更新しています。



4) インスタグラム

難民の状況等の情報を発信しました。



5) SNS 配信、YouTube チャンネル

当団体の最新情報を発信するために、Facebook ページにて活動のアップデートを定期的に共有しました。同時に、YouTube チャンネル「アルペチャンネル」を通じて、動画形式での活動内容を広く配信しました。

6) パンフレット 活動紹介パンフレットをリニューアルし、47,000 部発行しました。

7) 新聞広告 カトリック新聞に広告を掲載しました。

日本で難民として認められるのは1%以下。

“日本に逃れてきた難民たちを、友情をもって受け入れることをお願いします。”

教皇フランシスコ
(2019年11月25日 東京カテドラル聖マリア大聖堂「青年との集い」にて)

日本の難民認定率は、世界的に見て低い水準です。2023年度の認定率は、約0.1%です。これは、約100万人の申請者に対して、わずか100人程度が認定されたことを意味します。

来日した難民に「シェルター」と「暮らしの支援」を提供。2023年度に認定されたアルペなんみんセンターは、シェルターの提供や、生活費の支援、日本語の学習支援など、多岐にわたる支援を行っています。

あなたのご寄付が、彼らの命と希望を支えます。2023年度のご寄付額は、約100万円です。これは、約100人程度の生活費を支えるのに十分な額です。

新年度からご寄付いただけます。お名前・金額・住所・電話番号・Eメールを明記の上、下記までお送りください。

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 NPO法人アルペなんみんセンター
TEL: 0467-55-5422 FAX: 0467-55-5423
Eメール: info@arrupe-refugee-center.jp

難民の命と希望を支えるために、ご寄付をお願いします。

シェルターの提供や、母国での迫害の傷を癒し、定住するための支援を行っています。

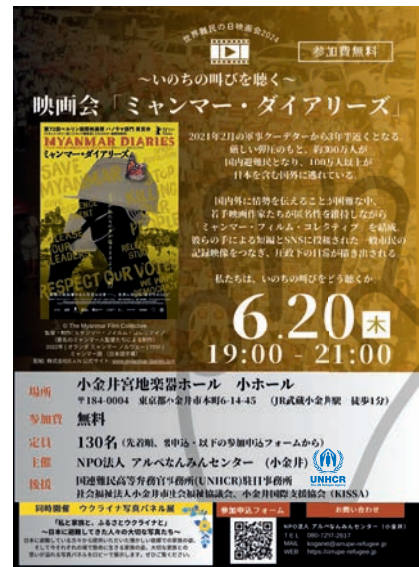
NPO法人アルペなんみんセンター
〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所80
イエズス会 日本殉教者修道院
Tel.0467-55-5422 (アルペなんみんセンター) Q

“日本に逃れてきた難民たちを、友情をもって受け入れることをお願いします。”

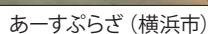
教皇フランシスコ
(2019年11月25日 東京カテドラル聖マリア大聖堂「青年との集い」にて)

世界難民の日のイベントを東京と神奈川で行いました。

■東京 6月20日(木) 小金井宮地楽器ホール(東京都小金井市)



かながわ県民センター（横浜市）



(4) 第56回 慈善茶会 (公益財団法人鎌倉青年会議所主催) への参加

2022年度から、鎌倉大仏殿高德院で開催されている慈善茶会に参加させていただき、3年連続で寄付先を選んでいただきました。



(5) 日本の食を難民の心に届ける会との交流

全国のラーメンファンから聖地と呼ばれている名店「飯田商店」が、2022年11月から出張出店いただいています。今年度も5月、11月に交流事業を開催いたしました。

日本の食を難民の心に届ける会



主宰店

飯田商店 (神奈川県湯河原町)

会員店

Japanese Soba Noodles 薦 (東京都渋谷区)

中華そば四つ葉 (埼玉県川島町)

とものもと (千葉県船橋市)

中村麵三郎商店 (神奈川県相模原市)

麵ふじさき (東京都江東区)

雪ぐに (横浜市泉区)

Ramen FeeL (東京都青梅市)



(6) BAT (ブリティッシュ・アメリカン・タバコ) ジャパンとの交流会

BAT (ブリティッシュ・アメリカン・タバコ) ジャパンは社会貢献プロジェクト「IPPUKU プログラム」を展開し、地域社会の一員として、多様で持続的な地域社会の発展に貢献することを目指しています。交流会はその一環として開催されています。

今年で4回目の開催になります。アルペなんみんセンターの入居者、神奈川県内にお住まいのウクライナ避難民、BAT ジャパンの社員の方々と楽しい一時を過ごしました。



(7) メディア掲載

- ・心込めた一杯で難民支援 2024/5/2 タウンニュース
- ・難民申請中の外国人、ラーメンで励ます 県内店主ら鎌倉の支援施設で提供 2024/6/14 神奈川新聞
- ・人気ラーメン店が難民支援で心を一つに 6月20日は「世界難民の日」 2024/6/19 朝日小学生新聞
- ・連載 カリハウメン 2024/11/12-13 毎日新聞デジタル
- ・アルペなんみんセンターが施設見学会を開催！ 2025/2/18 湘南人
- ・神奈川県民ホールで「ウクライナ国立オデーサ歌劇場オーケストラ」公演
「写真と映像で見るウクライナ」も 2025/3/2 ヨコハマ経済新聞

3 調査・研究事業

(1) 「鎌倉なんみん共生フォーラム」の取り組み

地域における難民の受け入れと支援に関する連携をはかるため、市民グループ、社会福祉協議会、社会福祉施設、市議会議員、メディア関係者などが集い、学習会（2回）を行いました。



(2) 地域通貨「クルッポ」を活用した地域とのつながり

鎌倉市が運営する地域通貨「クルッポ」の加盟スポットとして、クルッポを使って体験できるプログラムを提供しました。また、Instagramへの感想や質問を送った方にクルッポを差し上げるなど、双方向のコミュニケーション手段として活用しました。



(3) 国内外の難民支援団体とのネットワーク

■ NPO 法人 移住者と連帯する全国ネットワーク

国内の難民移民支援ネットワーク団体「移住者と連帯する全国ネットワーク」に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めました。

■ NPO 法人 なんみんフォーラム

～収容代替措置（ATD）の受け皿としての役割

国内の難民支援ネットワーク団体「なんみんフォーラム」に参加し、日本における難民の諸問題に関する情報収集および関係団体との連携強化に努めました。

また、法務省、日本弁護士連合会、なんみんフォーラムが2012年から実施している「日本の空港において難民としての庇護を求めた者に係る住居の確保等に関する事業」の受け皿としての役割が広がってきました。

■ JCAP Migrants and Refugees Network への参加

JCAP Migrants and Refugees Network（アジア地域の移民難民支援団体のネットワーク）のオンライン会議に定期的に参加し、情報交換、共有を行いました。また、以下の国際会議にスタッフを派遣しました。

2025 年 3 月「ネットワーク会議」 韓国

ミャンマー難民の現地視察（タイ・メーソート）

2021 年 2 月にタイで国軍によるクーデターが発生し、その結果、290 万人以上の国内避難民が生まれ、1800 万人以上が人道支援を必要とする状況となりました。また、120 万人以上が隣国へ逃れ、難民として避難生活を送っています（UNHCR、2024 年 4 月）。

このような状況を受け、JCAP ネットワークはミャンマー支援を協働で行うことを決定し、2024 年 9 月にタイのメーソートでミャンマー難民の現地視察を行いました。視察後も、ネットワーク内の諸団体と情報を共有しながら、どのような支援ができるかを継続的に検討していく予定です。この取り組みは、ミャンマー難民に対する具体的な支援策を策定し、実行するための重要な一歩となります。



日本の各空港に貼られている
難民申請に関する情報ポスター



韓国でのネットワーク会議



ミャンマー難民キャンプ 2024 年 9 月 タイ・メーソート